

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

㊦ガリラヤ巡礼に至る重要な出来事

5. イエスは悔い改めない町を叱責し、悔い改めた町を歓迎する

デイリー・ジーザス・ニュース #085

基本テキスト: MT 11.20-30 (並行テキスト: なし)

20 それからイエスは、多くの奇跡を行った町々が悔い改めなかったことを責め始められた。

21 「コラジンよ、あなたは災いを受けます。ベツサイダよ、あなたは災いを受けます。あなたがたの中で行われた奇跡が、もしティルスとシドンで行われていたなら、彼らはとうの昔に荒布をまとい、灰をかぶって悔い改めていたことでしょう。22しかし、あなたがたに言います。裁きの日には、あなたがたよりもティルスとシドンの方が耐えやすいでしょう。」

23カペナウムよ、お前は天に上げられるのか。いや、深みに落ちてしまうのだ。お前の中で行われた奇跡がソドムで行われていたなら、ソドムは今日まで残っていたであろう。24しかし、裁きの日には、お前たちよりもソドムの方が耐えやすいと、わたしは言う。」

25 そのとき、イエスは言われた、「父よ、天地の主よ。あなたはこれらのことを、知恵のある者や悟りのある者に隠し、幼子たちに現されたので、私はあなたに同意します。26そうです、父よ、これはあなたの御心なのです。」

27 「すべてのものは父からわたしに渡されています。父のほかに、子についての経験的な知識を持つ者はいません。また、子と、子が父を啓示しようと選んだ者のほかに、父についての経験的な知識を持つ者はいません。」

28 「疲れた者、重荷を負っている者は皆、わたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。29わたしのくびきを負って、わたしに学びなさい。わたしは心が柔和で謙遜だからです。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられます。30わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」

」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤字で斜体で書かれています**。旧約聖書からの引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

位置	ガリラヤのどこか
----	----------

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

タイムライン	西暦31年5月 (第16月)
イエスの生涯の文脈	第4段階：ガリラヤにおける大宣教
	回ガリラヤ巡礼に至る重要な出来事
タイトル	5. イエスは悔い改めない町を叱責し、悔い改めた町を歓迎する

コメント：

今日の朗読箇所の冒頭で、イエスは人々の気まぐれな期待の不一致を甘やかされた子供のように叱責した後、積極的な叱責へと転じました。この叱責の内容を考える前に、これらの言葉の背景について深く考えてみましょう。

イエスは、ガリラヤにある三つの町、コラジン、ベツサイダ、カペナウムについて言及しました。ガリラヤでの宣教活動において、イエスはカペナウムを本拠地とされました。イエスはそこで他のどの場所よりも多くの奇跡を行いました。ベツサイダはカペナウムから東へ数マイル、ガリラヤ湖畔に位置していました。ペテロとアンデレはもともとこの町の出身でした。コラジンはカペナウムから北へ数マイルの丘陵地帯に位置していました。このように密集していた三つの町で、イエスがこれほど多くの宣教活動を行ったのも当然と言えるでしょう。

これほど多くのことを見聞きしていたにもかかわらず、これらの町の住民は皆、悔い改めてイエスの福音を信じてはいませんでした。イエスが奇跡的な力で彼らの物質的な必要を満たしてくれることに満足していましたが、それ以上ではありませんでした。異邦人の百人隊長はカペナウムで同じ奇跡を目撃し、そこから学び、キリストを信じていました。しかし残念ながら、彼のような町の住民はほとんどいませんでした。

「わざわい……」という恐ろしい警告で叱責しました。これは差し迫った滅びの前兆です。イエスの叱責は、神が光の原則に従って裁かれることを示しています。私たちが受けた啓示が多ければ多いほど、それに従う責任は大きくなります。逆に、受けた啓示の少なさに比例して、私たちの責任は小さくなります。私たちは自分が持っている知識に対してのみ責任を負いますが、それを信じ、従うことについては完全に責任を負います。

イエスは、最後の審判において、ソドムよりも多くの啓示を受け、それを拒絶した三つの都市にとって、よりひどい仕打ちを受けるだろうとおっしゃいました。ソドムは旧約聖書において既に神の裁きによって滅ぼされていたため、イエスの警告の言葉を聞いた人々は皆、イエスが語る状況の深刻さに衝撃を受けました。

イエスは、神から啓示を受ける能力は神の恵みによるものであり、私たちの生まれ持った能力や価値によるものではないと教えました。御子以外に父なる神を真に経験を通して知る者はおらず、御子を父なる神以外に知る者はいません。言い換えれば、三位一体の各位格は、他の二人の位格について独自の経験的知識を持っています。人間にはこの知識を直接得る方法がありません。神として存在し、神を経験するとはどういうことなのか想像することすらできず、ましてやそれを自分の心の中で理解することなど到底できません。

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

イエスは三位一体を私たちに明らかにするために来られました。それは、私たちが永遠に彼らの愛の交わりと共同体に入るためでした。この啓示は純粋な恵みであり、誰もそれを受けるに値しません。それゆえ、自分はそれを理解できるほど「賢く」「聡明」であると考えた人々、あるいは自分自身でそれを経験できると考える人々からは「隠されている」のです。それは純粋な傲慢であり、神はそれを拒絶されます。なぜなら、それは根底から完全に偽りだからです。

一方、神は、謙虚に神に頼り、神に信頼する態度において「幼子」のような人々に、御子を通してご自身を現すことを選ばれました。福音書の中でイエスが「幼子のような」ことの美徳について語られたのは、この箇所が初めてです。イエスは今後、このことについてさらに詳しく語られるでしょう。今は、「幼子のような」ことのイメージにおける肯定的な特質は、謙虚さと依存心であることに留意してください。（イエスは以前、幼子のようなことの否定的な特質として、気まぐれで一貫性がないことを言及していました。）

三位一体は高慢な者を拒み、謙遜な者、つまり子どものような心に恵みを与えます。これは神の喜びです。イエスは、高慢な者に対するこの姿勢において父なる神に賛同されました。イエスが父なる神について他のどこよりも多くを啓示された三つの町に住む人々の大多数は、高慢さゆえにイエスの光を拒絶していました。それゆえ、彼らは裁きの「災い」の深刻な危険にさらされていたのです。

一方、ローマの百人隊長やイエスの弟子たちのような「子供のような」魂を持つ者も少数いました。彼らは謙虚になり、イエスの啓示を受け入れ、イエスの教えに従いました。イエスが天の事柄を彼らに啓示し続けるにつれ、彼らはイエスに宿る神の豊かさを徐々に受け取っていきました。

今、イエスの美しさと謙遜さを思い起こしてください。イエスが語りかけ、奇跡的な慈悲と力で癒しを与えた人々のほとんどがイエスを信じていなかったにもかかわらず、イエスは無条件の慈悲深い愛をもって彼らに手を差し伸べ続けました。そして、彼ら全員に、最も慈悲深い招きの言葉をかけました。

「疲れた者、重荷を負っている者は皆、わたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。わたしのくびきを負って、わたしに学びなさい。わたしは柔和で謙遜な者ですから。そうすれば、あなたがたの魂に安らぎが与えられます。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」

イエスは、自分を拒む人々が、苦悩、罪悪感、失敗、不満といった、骨を砕き、心を砕くような重荷を背負い続ける人生に自らを墮落させていることを知っていました。イエスは動詞の時制を用いて、「疲労」を常に続くものとして、そして「重荷を負う」ことの結果を、決して捨て去ることのできない永続的な状態として描写しました。

イエスは、私たちが主を拒絶するという愚かなプライドの当然の報いを受けるべきだ、と態度を取り、自ら招いた苦しみの重荷を背負わされるままに放置するのではなく、主を拒絶する者たちを、もはや背負いきれない重荷に押しつぶされそうな人々として見てくださいます。そうです、イエスは「心が柔和で謙遜」であり、その度合いは計り知れないほど深く、崇拝を必要とします。だからこそ、イエスは二つの戒めと一つの約束を与えたのです。

その命令とは、「今すぐ来なさい」と「私のくびきを負いなさい」です。「来る」とは、イエスを信じる決意をすることです。「彼のくびきを負う」とは、自分自身を完全に、そして頼りにイエスに明け渡し、常にイエスに合わせることでイエスの御心に従うことを意味します。この命令は、イエスの話を聞いていたすべての人がよく知っていた、豊かな言葉の比喻でした。

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

裕福な農民は牛をチームで使い、土地を耕しました。どのチームにもリーダーがいて、そのリーダーは群れの中で最も強く賢い牛でした。リーダーの牛は先頭に立ち、最初に荷を担ぎ、最も懸命に働きました。他の牛はリーダーの後ろについていきます。リーダーの後ろをうまくついて行けば行くほど、リーダーの牛の力とスタミナの恩恵を最大限受けられるため、自分の担当する荷は楽になりました。

イエスはすべての荷を担う指導者です。私たちはイエスと完全に歩調を合わせることで、イエスの力と導きの中に身を委ねます。くびきは私たちを縛ったり制限したりするものではなく、むしろ、私たちのためにイエスが与えてくださる力から恩恵を受けるための道具です。くびきは、私たちの荷の重さを私たちからイエスへと分散させます。それは、主に従うことにおける完璧な協調性、そして常に主との最も親密な交わりの中での交わりを物語っています。

ですから、イエスを導き手、かづける者として迎えることによって、平安と安息がもたらされます。なぜなら、イエスはくびきの重苦しさや困難を負ってくださり、私たちはイエスの力に支えられながら、共に歩んでいくからです。イエスは、私たちの前に立ち、はだかるあらゆる困難と重荷を克服し、耐え抜く力をお持ちだからこそ、計り知れないほどの平安を約束し、実現することができたのです。

応用：

イエスは偉大ではありませんか。彼の愛は「命よりも素晴らしい」のです。

イエスはまず、ご自分を拒絶した人々に、彼らの行いの重大さを警告することにより、これらの人々を愛されました。ご自分の啓示に彼らが反応しなかったにもかかわらず、彼らを癒し、導き続けることにより、彼らを愛されました。そして、最もそれに値しない人々に対し、史上最も思いやり深く、慈悲深い招きを発することにより、彼らを愛されました。永遠の平和と安息の人生に共に加わるようにという招きを発することで、イエスは愛に満ちた心を大きく開いてくださいました。

あなたはすでにイエスを信じてイエスのもとに「来ました」か？

イエスの導きに対する感受性が増すにつれ、あなたは平安と安息の中で成長していますか？

あなたは今日、自分の意志をイエスの導きのくびきに明け渡し、何をイエスに捧げる必要がありますか。